



スカウト運動創始100周年

B-Pとスカウト運動の歴史

2007年は、スカウト運動がはじまって100周年に当たります。

1907年に、ベーデン・パウエル（B-P）がイギリスのブラウンシー島で20人の少年達を導いて実験キャンプを行ったのがボーイスカウト運動のはじまりです。

ここでは、100周年記念事業、B-P、スカウト運動の歴史などについてご紹介します。

100周年とは？

イギリスではじまったスカウト運動は、現在では世界216の国と地域で2,800万人を超す世界最大の青少年教育運動として発展しており、2007年で100周年を迎えました。

(引用：日本連盟配付資料)

○100周年記念事業

この意義ある2007年を中心に、世界各国のスカウト組織は、様々な「100周年記念事業」を展開します。スカウト運動にとって意義ある100周年を迎えるため、世界中のスカウト組織をあげて行われる事業なのです。

○テーマ「ひとつの世界 ひとつのちかい」

世界スカウト機構が示す100周年のテーマは、「2007:One World One Promise」です。日本では「2007:ひとつの世界 ひとつのちかい」とされました。

○100周年記念事業の目的

世界スカウト委員会は次のように提唱しています。

- ・スカウト運動の100周年を祝う。
- ・世界のスカウト運動の結束を示す。
- ・スカウト運動の質を改善し促進する。
- ・より平和な世界を促進する。
- ・スカウト運動の素晴らしい価値を示す。
- ・楽しく有益な経験を提供する。
- ・自然や環境への関わりを示す。
- ・すべてのコミュニティに対する関心を示す。

○100周年記念ワッペン

スカウトが制服に着用しているこのワッペンは、100周年を記念して作られたもので、デザインは世界共通のもので



○記念事業の具体的内容

1. 世界スカウト機構が提唱する事業

- (1) 世界共通デザインワッペンを着用
- (2) 記念事業の実施
 - ① ギフト・フォー・ピース (Gifts for Peace)
平和促進のためのプロジェクト活動の実施
 - ② サンライズセレモニー
 - ③ 世界の記念行事 = 「お祝いする日」
 - ・ 2007年2月22日
創始者ベーデン・パウエル(B-P)の誕生日。
 - ・ 2007年4月13日
ボーイスカウト日本連盟創立記念日
 - ・ 2007年8月1日
1907年に実験キャンプが行われた日
 - ④ 世界ジャンボリー等への派遣

2. 日本連盟が提唱する事業

- (1) ステップアップ100運動
- (2) B-P 著作書籍の翻訳発行
- (3) 日本ボーイスカウト探訪100選の選定
- (4) ブラウンビー島再現キャンプ脚本の提供
- (5) 日本ジャンボリー等全国大会
- (6) 県連盟(地区)・団による独自の100周年記念事業の実施展開

B-Pとは?

世界スカウト機構が提唱する事業にもあるとおり、2007年2月22日は、ボーイスカウト運動の創始者「ベーデン・パウエル」の誕生をお祝いする日とされています。

ベーデン・パウエル(B-P)とは、いったいどんな人物だったのでしょうか？

その生涯を紹介します。

(引用:ボーイスカウトハンドブック)



B-Pは、1857年2月22日にオックスフォード大学のパウエル教授の6男としてイギリス・ロンドンで生まれました。その父を3歳の時になくし、母ヘンリエッタは大勢のこどもを養うのに苦勞をしました。

一緒に育った7人の兄弟(うち男6人)と戸外で遊ぶことが好きで、チャーターハウス(B-Pが通った学校)では人気者でした。

観察推理の技術が得意で、彼がよく立入禁止の森に忍び込んで、足跡を残さない方法や木の登り方、学校の先生が森に入ってきた時に気付かれないで身をひそめる方法などを学んだというエピソードも残っています。

19歳の時にイギリス陸軍に入り新米の士官となってインドに渡り、斥候、地図づくり、調査報告に専念しました。

彼は、すぐに頭角を現し、その成果を認められて、他の兵士を訓練する職務をまかされました。ここで彼は、部下の兵士達が士官に頼らないでも自分自身で兵士としての責任がはたせるようになる方法について考え、斥候術の研究をしたのです。

その後、各地を転任しましたが、アフリカにいた期間が一番長く、現地の部族との戦いに参加しました。マタベル(アフリカの部族のひとつ)には、B-Pの勇敢さとすばらしい斥候術から「イサピーサー 眠らない狼」と言われ恐れられました。

40歳をすぎた1900年にB-Pは、突然世界的に有名な人物になりました。

南アフリカで起きたボーア戦争で敵に囲まれたマフェキングという町を、217日間守りぬいたのです。

ここでB-Pは、スカウティングにとっても大きな経験をしました。それは、マフェキングの伝令部隊の少年達が発揮した勇気と機知です。

任務と責任が与えられたならば、少年達は大人にも負けない働きをすることを知り、彼に一生忘れられない強い印象を残したのです。

こうしてイギリスの救援軍が来るまでの長期間町を守りぬいたB-Pは、帰国して全国的な「偉大な英雄」として迎えられました。

また、彼が兵士のために書いた小さなハンドブック「Aids to Scouting」(斥候の手引き)までが評判になり、学校などで観察や野外活動の指導に使われていました。

これを知ったB-Pは、大人のために書いた本が少年達に歓迎され、彼らをはげますことが出来るのならば、少年達のための本を書けば、もっと彼らのためになることだろうと考えたのでした。



少年たちを指導するB-P

こうして1907年にブラウンシー島での実験キャンプで彼のアイデアが試されました。

小さなキャンプと一冊の本からスタートしたこの運動は、またたく間に世界中に広がりました。



BROWNSEA ISLAND CAMP.

JULY 25 - AUGUST 9, 1907.

少年達と共にある彼の生活は、軍人時代よりもっと辛くて忙しい—しかし喜びである—ものでした。

スカウト運動を盛んにすることが、天が自分にさずけた仕事だと考えた彼の献身的な働きによって、スカウト運動は世界的な友愛運動になっていきました。これこそが、彼に大きな喜びをもたらしたのです。

1912年にB-Pは世界一周旅行に出かけ、この年の4月には日本にも訪問しています。

この世界旅行を境としてスカウト運動は言語、人種、宗教をこえた世界的な兄弟愛で結ばれた運動となりました。

1920年ロンドンの第1回世界ジャンボリーで、スカウト達はB-Pをチーフスカウト・オブ・ザ・ワールド=「世界の総長」と宣言しました。

その後も運動はなおも成長を続け、1929年イギリス国王・ジョージ5世は、男爵の位をおくり、「ロード・ベーデン—パウエル・オブ・ギルウェル」と称するようになりました。

B-Pは晩年、世界中を旅してスカウト運動を広めることに努めました。そして彼が第2の故郷アフリカに渡り、やがて1941年1月8日84歳でケニアの地で永眠しました。

彼の創設したスカウト運動はますます発展し、世界中の数多くの若者達がよき市民となり、幸福な人生を送ることに役立っています。



ブラウンシー島とは？

1907年にベーデン・パウエル (B-P) が20人の少年達を導いて実験キャンプを行った場所がイギリスの『ブラウンシー島』です。

2007年には、同じくイギリスで「第21回世界スカウトジャンボリー」が開かれました。

ここで、ブラウンシー島の場所を確認しておきましょう。

(引用:ボーイスカウト山口県連盟HP)

ブラウンシー島は、イギリス南部のプール湾の中にあります。



イギリス本島南のイギリス海峡に面したボーンマス (Bournemouth) の西にプール (Poole) という海辺の小さな町があります。



その湾内に平べったく浮かぶ島がブラウンシー島です。

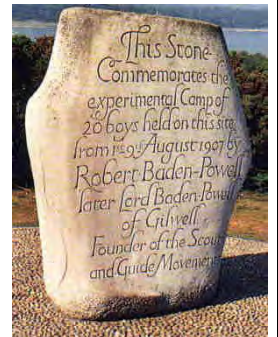


B-Pは、少年時代にこのブラウンシー島を訪ねたことがありました。

その後、1907年5月にアイルランドで魚釣りを楽しんでいた際に、チャールズ・バン・ラード夫妻との運命的な出会いがあり、夫妻にブラウンシー島の城(別荘)に招待されました。

B-Pは、このプライベートビーチと島を、キャンプを行う最適地として後に借用に及んだと言われています。

実験キャンプは、1907年7月25日～8月9日までの16日間のうちで、準備や後片付けに要した日もありましたので、実際には12日間でした。



島にある石碑→

スカウト運動の世界への広がり

ベーデン・パウエル（B-P）がイギリスではじめたこのスカウト運動は、どのようにして世界に広がったのでしょうか。

スカウト運動の歴史をひもときます。

（引用：ボーイスカウトハンドブック）

○「スカウティング・フォア・ボーイズ」の出版

偉大な軍人であったB-Pは、兵士のために書いた小さなハンドブック「Aids to Scouting」（斥候の手引き）が評判になり、学校などで観察や野外活動の指導に使われていることを知っておどろきました。

そこで、かねてから若者のための「スカウティング」という構想を持っていたB-Pは、1907年8月にブラウンシー島で実験キャンプを行い、それがうまくいくことを確かめて、翌年の1908年1月、「スカウティング・フォア・ボーイズ」を出版しました。

○少年達への呼び掛け

「スカウティング・フォア・ボーイズ」は、たちまちイギリスでベストセラーになりました。

この本の中でB-Pは、「いつでも他人に先がけて困難な仕事にあたり、危急を救い、どのように苦しい時にも口笛を吹きながらユーモアを忘れない男らしい男—平和の斥候—をイギリスは求めている。立派な平和の斥候になるためには大人になってからではおそい。子ども時代に正しい訓練法によってその基礎を作っておくべきである。」と、少年たちの訓練方法を当時の青少年団体向けに呼びかけたのです。

ところが、おどろいたことに、少年たちが自分たちでスカウトの班や隊を作りはじめ、それがまたたく間にイギリス中に広がったのです。これがやがて、世界最大の自主参加による青少年活動—スカウト運動—になっていきました。

○「はじめたのは少年たちだ」

創始者B-Pは、かつて次のように言いました。「運動を始めたのは私ではない。少年たちだ。私は本を書いたに過ぎない。」と。

○世界への広まり

B-Pが書いた「スカウティング・フォア・ボーイズ」の成功から、ボーイスカウトという名の運動は、非常に早く、また自然発生的に発展していきました。

○班制度が運動を支えた

二度にわたる世界の戦争は、スカウト運動の存続にとっても危機でしたが、逆にその価値を発揮することとなりました。戦場に行ってしまった成人指導者に代わって班長がその役割を担うなど、さまざまな工夫によりスカウトたちはこの非常事態を乗り越えたのです。

○世界ジャンボリーの開催

そして戦後の1920年には、イギリスのロンドンで「第1回世界ジャンボリー」が開かれ、ますます世界中にこの運動が広まっていったのです・・・。

日本でのスカウト運動の広がり

日本ではスカウト運動がどのようにして発展してきたのでしょうか？日本におけるスカウト運動の歴史を見てみます。

○日本におけるスカウト運動の発展

1908年1月に出版されたB-Pの「スカウティング・フォア・ボーイズ」によるスカウト運動の広まりは、当時イギリスに滞在していた秋月左都夫公使によって、早くもその年に日本政府に紹介されています。

1911年には、スカウト運動に大きな関心を寄せていた乃木希典大将がイギリスに渡ったときに、ロンドンでボーイスカウトの集会を見学しB-Pとも会見しました。

○B-Pの日本訪問

1912年にB-Pは世界一周旅行の途中で、夢に出てきた聖パウロ(キリスト教を世界に広めた人物)の「きみはあのすばらしい国、日本へ行ったか」という一言でどうしても行きたくなり、日本に6日間滞在しました。

○「少年団」の結成

B-Pの日本訪問がきっかけとなって、翌年の1913年、各地で「少年団」という名前でボーイスカウト組織が発足しました。

1916年には中野忠八が指導する京都少年義勇団が、滋賀県雄松岬で日本初のスカウトキャンプを実施し、1920年の第1回世界ジャンボリーには日本からも3名のスカウトが参加しました。

1921年に皇太子(後の昭和天皇)がイギリスを訪れB-Pとお会いになり、その時の模様が報道されたため、スカウトの連盟結成の気運が一気に高まりました。

そして、翌年1922年に全国組織である「少年団日本連盟」が結成され、4月13日には東京で記念大会が開催されたのです。この日が、現在の「ボーイスカウト日本連盟」の創立記念日とされています。

○戦争による解散と再発足

満州事変、第2次世界大戦と世の中が激動する中で、平和の運動であるボーイスカウト運動は軍部によって解散させられてしまいます。しかし、戦後の1947年1月には、早くも東京と横浜でスカウト活動が再開され、「ボーイスカウト日本連盟」として再発足しました。1949年9月に「全日本ボーイスカウト大会」を開催し、1950年7月には国際事務局に再登録して世界の仲間へ復帰したのです。

○時代にあわせた様々な変化

その後、日本のボーイスカウト運動は、時代にあったプログラムの新設や見直しが進められて現在に至っています。

それまではボーイ部門しかありませんでしたが、1952年から、カブ部門・シニア部門(現在のベンチャー部門)・ローバー部門のスカウトプログラムがはじめられました。

長野県軽井沢で「第1回日本ジャンボリー」が開催されたのは1956年のことで、以後、4年ごとに回を重ねています。

1971年には、静岡県朝霧高原で「第13回世界ジャンボリー」も開催されました。

1986年にビーバー部門のプログラムが開始され、1995年には全部門に女子が加入できるようになり、1999年にシニア部門が「ベンチャー部門」とされました。

**200年目に向けての新しい歴史は、
現在のスカウト一人ひとりが作るのです。**